「全国学びとまちづくりフォーラムｉｎ佐野」

２月９日・１０日の２日間、文化会館とその周辺で開催されました。

東日本で初めての全国規模のフォーラムとして、生涯学習やまちづくりに関する分科会やシンポジウムが行われ、各地のＮＰＯ団体による先進的な事例の発表や、「いまこそ生涯学習の時代」をテーマに、文部科学省をはじめ、生涯学習に精通した５人のパネリストによるディスカッションが行われました。

また、市の「楽習講師」による「楽習講師フェア」なども同時に開催され、ステージ発表や体験コーナーが設けられ、会場を訪れた多くの方たちが、さまざまかたちで生涯学習を体験しました。

市には「楽習講師」として、各分野の方々が「生涯学習ボランティア講師」として登録され、いろいろな講座が開催されています。講座に関する情報は広報さのや市ホームページでお知らせしていますので、ぜひご参加ください。

Town Topics まちの話題

町会長が表彰されました

このたび、長年にわたる地域への貢献に対する表彰を受けた町会長の皆さんが、岡部市長に受賞の報告をしました。

川田文次さん（亀井町）が栃木県自治会活動功労者知事表彰を、亀田照藏さん（天明町）、上岡良雄さん（浅沼町）、篠﨑芳朋さん（下多田）、川久保明さん（山越）が栃木県自治会連合会自治振興功労者表彰を受賞しました。

第６３回大澤駅伝競走大会

２月３日、第６３回大澤駅伝競走大会が開催されました。

この駅伝大会は、３千メートル障害で日本記録を樹立しながら、太平洋戦争で戦死した大澤龍雄選手（牧町出身）の追悼行事として、昭和２６年から開催されている歴史ある大会です。

大会は、一般男子、高校男子、中学男子、一般・高校女子、中学女子の５部門で行われ、昨年よりも約４０チーム多い、１４９チームが出場。運動公園周辺の周回コースを舞台に、各選手による熱戦が繰り広げられました。

また、一般男子の部には、大澤選手の母校である日本大学から２チームがオープン参加し、力強い走りを披露しました。

佐野Ａが総合２位 県郡市町対抗駅伝競走大会

１月２７日、「第５４回県郡市町対抗駅伝競争大会」が、県庁前から栃木市総合運動公園陸上競技場までを往復する１０区間６０．０２キロで行われました。

参加２８チーム中、佐野Ａが往路、復路とも２位、３時間６分２４秒のタイムで総合２位となりました（前回は総合３位）。

優勝は　那須塩原Ａで、３時間４分１０秒（大会新）でした。なお、上位５チームは以下の通りです。

１位・那須塩原Ａ
２位・佐野Ａ
３位・足利
４位・真岡Ａ
５位・大田原Ａ
（第１４位・佐野Ｂ）

音訳つづけて３０年！ 音訳ボランティアやまびこの会

若田部会長(左)と星野前会長(右)

厚生労働大臣表彰を受賞されたやまびこの会

“音訳”をご存じですか？朗読が主に文学を感情豊かに読むことに対し、音訳は主観を入れずできるだけ忠実に音声化することです。

音訳ボランティアやまびこの会が、「広報さの」を始め、情報紙や話題の本などを読んだ録音テープを市内の視覚障がいのある方々に届け、また対面で本を読む活動を続け、３０年になりました。

昨年８月は嬉しい知らせが届きました。本を録音するには著者や出版社の許可が必要ですが、文化庁から著作権を気にせず本が録音できる団体に指定されました。さらに地道な活動が評価され厚生労働大臣賞を受賞しました。そして活動のあゆみをまとめた３０周年記念誌を発行しました。

会を創立し、昨年まで会長を務めた星野勢津子さんは「真心を込めて読んでいるので本当に嬉しいことですが、カセットテープからデジタル化を余儀なくされ勉強することが一杯です」と思いを新たに話してくれました。どんなにか会員の皆さんの励みになったことでしょう！利用者さんたちの喜ぶ顔が浮かびますね。　（市民記者　永倉）

ちりめん細工の作成とつるし雛

玄関で出迎えてくれるちりめん細工

まもなく３月３日「ひな祭り」の日を迎えますが、皆さんのお宅では、ひな人形を飾っていらっしゃるでしょうか。

江戸時代からの歴史をもつ伝統手芸「ちりめん細工」で、可愛く小さなお人形を作っていらっしゃる山下和子さん（富岡町）は、ひな祭りに向けて、つるし雛の制作に余念がありません。

山下さんは「肌触りよく、織が確かで、だいたんな柄、いろどり美しい日本の着物（古布）にもう一度輝きを取り戻してほしい」といまから５年ほど前にちりめん細工を始めたそうです。人形や花、まりなど、山下さんが作り出した作品は愛らしく、ほのぼのとした存在感があります。

山下さんの「つるし雛」をみて、ひな人形や日本の着物の素晴らしさにあらためて気づき、感動しました。皆さんのお宅ではひな人形や着物が眠っていらっしゃることが多いのでは。ぜひ、その素晴らしさを再び感じてください。　（市民記者　河場）

佐野弁 ばんざい

「潰（つぶ）れる」ことをチャブレルという

外部からものに力を加えると、形が崩れてぺしゃんこになることがあります。このような状態になることを方言ではチャブレルといいます。

例えば「木箱にのっかったらチャブレタ」「空き缶を踏みつけたらチャブレタ」など。また、財産・資産が潰れることもチャブレルといいます。

「アソコンチ（あそこの家）は、山林や田畑がエラク（たくさん）あったんだってけど、死んだじいさんが、酒と女と博打（ばくち）に手を出したもんだから、チャブレチャッタ（潰れてしまった）んだってさ」

チャブレルに「オ」（接頭語）の付いたオッチャブレルがありますが、意味的には同じなのでチャブレルとオッチャブレルは置き換えることができます。「オ」は語頭について語意を強めるはたらきがあります。チャブレルは「潰れる」が訛（なま）ったものです。

チャブレルと意味的によく似ていて、各年齢層に広く使われている方言に「オッピシャゲル」があります。

「木登りしてズクシ（熟し柿）を取ろうとしたら、ズクシがオッコッテ（落ちて）オッピシャゲテ（ぺしゃんこになって）食べランなくナッチャッタ」

高慢（こうまん）者の鼻を折るの「折る」を「テーシタ（たいした）気ンなってっから、鼻をオッピシャイでやった」のように、オッピシャグに替えて言うことはできますが、チャブスに替えて使われることはありません。

（市民記者　森下喜一）